

令和5年度 学校法人椿本学園
大阪社体スポーツ専門学校
自己点検・自己評価報告書

令和6年7月1日作成

目次

1……………教育理念・教育目標

2……………本年度の重点目標と達成計画

基準1……………教育理念・目的・育成人材等

基準2……………学校運営

基準3……………教育活動

基準4……………教育成果

基準5……………学生支援

基準6……………教育環境

基準7……………学生の募集と受け入れ

基準8……………財務

基準9……………法令等の遵守

基準10……………社会貢献

1. 教育理念

文明の発展は、便利さと引換えに運動不足を招き、様々な文明病と向き合うこととなった。また、少子化・高齢化が進み、健康・運動・スポーツへの関心が高まっている。子どもからお年寄り、健常者から障がい者、総ての人が身体を動かす楽しさ・喜びを、生涯に亘り実践できる環境整備が必要である。

運動・スポーツを実施することは、人と人が関わりあう中で、対人尊重、目標達成への努力、達成の喜びを経験することであり、素晴らしい人間関係を構築し、豊かな人間性を育む普遍的な営みである。生き甲斐の持てる生活のためにも、運動・スポーツを日々の生活の中に取り入れることが望まれる。また、医療費の増大を防ぐためにも、その実施を通して疾病の予防に力を入れなければならない。

運動・スポーツの指導者には、個人の健康維持やコミュニティー活動において対象に合わせた指導ができる能力が望まれる。加えて、それを実施することは人間形成としての側面も求められ、家庭、学校、会社、地域においても、指導的役割の出来る人物が望まれる。運動・スポーツを実施することや指導することは、身体的表現と共に言語的表現も必要であり、この分野で中心となって活躍できる体力と知力を兼ね備えた人物を輩出することを、教育の基本理念とするものである。

2. 教育目標

大阪社体スポーツ専門学校では、「幅広い教養」と「豊かな人間性」、「対人スキル(礼儀・マナー)」を基盤に、スポーツ分野の学校として、スポーツを通じて社会貢献することを掲げている。また、取得資格を活用できる実践力を授業内外で徹底的に習得し、社会において即戦力だけではなく継続的能力の達成を目標とした、教育活動を行う。

3. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①令和5年度重点施策振り返り

- ・1年生を対象に4月のフレッシュマン研修が宿泊を伴って実施できたことは、従来の入学直後の教育手段としての教育効果を望めた。
- ・1年生を対象に9月に、職業人教育としての企業へアプローチすることを見据えた2day研修を実施できた。
- ・1月末には、1年生全員を対象としたレベルアップ研修を企業連携による講師派遣プログラムを導入しながら2泊3日で行った。
- ・インターンシップ実習は受け入れ先が増え、社会人基礎力を向上させることができた。
- ・社会人として求められる人材育成を図る教育が徐々にではあるが成果をあげられている。

②令和6年度目標や計画

- ・多様化する社会に適応・貢献できる学生を社会人として送り出すための人材育成を行う。
- ・自己の気づきから主体的な学びを探究する教育を丁寧に行い、個々の成長を促す。
- ・企業との情報交換を積極的に行いながら学校と企業の乖離がない教育を行う。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

現在の社会環境に対応できる柔軟な対人スキルを身につけた人材の育成のために、より繊細に個人の特性を伸ばす教育を図ること。

②今後の改善方策

- ・各コースのカリキュラム内容をより充実させるために、個々の学生が享受できる仕組みづくりを行う。
- ・人材育成担当を各職種・業界からの招き、企業から求められている人材について理解を深めるキャリア教育の充実を図る。

(2) 学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備などが整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務が図られているか	3

①課題

中期的な視点での学校運営・業務の在り方を検討し、安定的な財務状況と業務遂行の効率化の具現化と迅速化を組織的に行うことが必要である。

②今後の改善方策

学校運営の効率化を図るための現状分析を行い可視化する。業務内容を精査し優先順位をつけ、さらに学内のIT化と併せて個人のスキルを上げる研修等を受けられる環境づくりの両面から改善していく。

リモート会議なども有効に活用し業務の効率化につなげることをしながら、情報の保護や管理についての遵守事項を明確にし、教職員が遠隔での業務を行う上でのフローを周知する。

③特記事項

中・長期・年次計画を策定して運営しているが、社会で求められている多様化に合わせて随時追加・修正をしながら、その目的に沿った運営を行っており若干ではあるがレベルアップしている。

(3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

人間力を高めるべく取り組んだが、学生の学ぶ姿勢、学びたい内容と教員との間に少しずれがあるように感じられた。これは、中学・高校で学んできた過程と専門学校での教育のずれが原因だと考えられる。

② 今後の改善方策

彼らがどのような環境、教育方法で学んできたのかを知り、それを引き継ぐような形で専門学校ではどのような方法論で教育を進めていくべきかを考える。そして、学生が描く卒業後の人生設計に何が必要なのか、資格取得の必要性も含め、考えていきたい。

③ 特記事項

資格取得希望者が減少傾向にあるが、資格試験の合格率は上がっている。受験者数を増やし、なおかつ合格率も維持あるいは上がるように、内容を見直していきたい。

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

① 課題

資格取得希望者が減少傾向にあるが、本学で取得できる主要な資格は現在も就職の際に役に立つ資格なので、受験者数を増やしていきたい。

② 今後の改善方策

売り手市場ということもあり、就職に関しては選ばなければ内定をいただける。だからこそ、学生にはしっかりと考えて就職活動をするように促していきたい。資格取得率向上に関しては、資格の有用性について業界の方から話を聞き、学生に伝えていきたい。

③ 特記事項

退学する学生には様々な理由がありゼロにすることは難しいが、担任・クラブ顧問・職員、そして保護者と連携して学生のサポートに努めていきたい。

(5)学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3

① 課題

進路・就職については求人数も増え、学生に対して個別に相談する体制を継続して行く。また、就職活動に対し、受け身の学生が前年よりも多く感じた。

② 今後の改善方策

各担任と連携を取りつつ今後もこちらから積極的に声をかけていく必要がある。

③ 特記事項

在籍する学生への就職・進学への支援については、各コース担任とキャリア支援担当によるサポート体制を取ることで就職決定率の安定化を図っている。

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題

校舎については築年数が古い為、今後も補修が必要となり随時行っていく。

② 今後の改善方策

インターンシップ、研修については卒業生を通じて受入れも増えているが、これからも新規開拓を継続して行う。

③ 特記事項

特に無し

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

少子化、大学全入時代による入学者の確保

② 今後の改善方策

・留学生の募集に着手。留学生を支援するための特別奨学金制度を設置した上で日本語学校の訪問、留学生対象進路ガイダンスに積極的に参加し、オープンキャンパスへ誘導する。

③ 特記事項

本校は大阪府専修学校各種学校連合会に加盟しており、同会で定めた募集ルールの下、広報活動を行っている。入試方法・AO入試の内容も、同会のルールを厳守し、取り組んでいる。

(8)財務

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

学生数の減少に伴い収支バランスの均衡を担保することが、さらに厳しい状況になることが予想される。

②今後の改善方策

経費・コスト削減に向けた取り組みを組織的に行う。

③特記事項

特に無し

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

デジタル化によりファイルのパスワード化を徹底しチェック機能を厳重にする。

②今後の改善方策

特になし。

③特記事項

個人情報に関するデータの取り扱いについて、スタッフを限定している。また、メールに関するセキュリティの強化に努め、それを組織として周知徹底をしている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

従来のスポーツイベントやボランティア活動の募集が増え、積極的に参加するように努めたが、地域貢献に関しては、できていないのが現状である。

② 今後の改善方策

昨年実施できなかった学校周辺での清掃活動など、できる範囲で実施していく。

③ 特記事項

社会貢献として、スポーツの楽しさと必要性を広めていけるよう、色々なイベントに参加することを検討していきたい。